

第3章 与謝野町の文化財の概要と特徴

1 指定等文化財の概要と特徴

1 指定等文化財

与謝野町の指定等文化財は、下記の一覧表のとおり令和4年3月31日時点で114件（国指定等10件、京都府指定等44件・与謝野町指定等60件）があります。

表12 与謝野町内の指定等文化財一覧

		国			京都府				与謝野町		合計	
		指定文化財	選定文化財	登録文化財	指定文化財	登録文化財	暫定登録文化財	決定文化財	指定文化財	登録文化財		
有形文化財	建造物	0	-	0	3	2	8	-	8	0	21	
	美術工芸品	絵画	0	-	0	2	0	0	-	4	0	6
		彫刻	1	-	0	0	0	0	-	18	0	19
		工芸品	1	-	0	1	0	0	-	10	0	12
		書跡・典籍	0	-	0	0	0	1	-	3	0	4
		古文書	0	-	0	0	0	1	-	1	0	2
		歴史資料	1	-	0	0	0	3	-	1	0	5
	考古資料	2	-	0	2	0	6	-	3	0	13	
無形文化財		0	-	0	0	0	-	-	0	0	0	
民俗文化財	有形民俗文化財	0	-	0	0	0	1	-	0	0	1	
	無形民俗文化財	0	-	0	0	3	-	-	4	0	7	
記念物	遺跡	4	-	-	4	0	0	-	5	-	13	
	名勝地	0	-	-	2	0	0	-	0	-	2	
	動物・植物・地質鉱物	0	-	-	2	0	0	-	3	-	5	
文化的景観		0	-	-	0	-	-	-	0	-	0	
伝統的建造物群		0	1	-	-	-	-	-	0	-	1	
文化財環境保全地区		-	-	-	-	-	-	3	0	-	3	
合計		9	1	0	16	5	20	3	60	0	114	

※町登録文化財では、現在の加悦伝統的建造物群保存地区内の16件の民家を加悦町登録文化財（自治体合併前）としていましたが、当地区の国選定によってそれらが特定物件となったことで登録を解除しました。

建造物

京都府指定文化財「天満神社本殿」など神社と寺院の建造物の指定等文化財が最も多いです。当地域の伝統的な宗教が神道と仏教であるため、住民の信仰の場として守り伝えられてきたことを示しています。寺院では臨済宗寺院が多くみられます。その他には、近世民家建築の京都府指定文化財「旧尾藤家住宅」や近代建築の京都府指定文化財「旧加悦町役場庁舎」・与謝野町指定文化財「旧加悦鉄道加悦駅舎」があり、これらは加悦地区に集中しています。

大型民家の旧尾藤家住宅は、加悦伝統的建造物群保存地区（通称、ちりめん街道）にあり、江戸時代から明治・大正・昭和時代に町の政治経済の中心的な役割を担った名望家めいぼうかの一つで、良好な状態で今日まで守り伝えられてきました。尾藤家は、近世・近代における当地域の発展を体現した経歴を持っており、旧尾藤家住宅はその物証的な存在です。



天満神社本殿



加悦伝統的建造物群保存地区



倭文神社本殿

美術工芸品：絵画

与謝野町指定文化財「絹本著色 仏涅槃図」けんぼんちやくしよく ほとけねはん（吉祥寺蔵）など仏画の指定等文化財が最も多いです。当地域では伝統的な宗教が仏教であるため、住民の信仰の対象として守り伝えられてきたことを示しています。寺院では臨済宗寺院が多くみられます。

他に特徴的なものとしては、与謝蕪村筆の京都府指定文化財「方士求不死薬図六曲屏風」ほうしふしやくをもとめるのずです。これは与謝蕪村の丹後時代という当地域に3年間滞在した時に制作された大型作品です。なお、蕪村は丹後時代以降に当地域の地名である与謝を冠して与謝蕪村と名乗ったと言われています。また、与謝野町指定文化財「尾藤家住宅襖絵群」おすまへは、当時の名望家の趣向を示しています。



仏涅槃図



尾藤家住宅襖絵群の一つ



方士求不死薬図六曲屏風

美術工芸品：彫刻

国重要文化財「木造女神坐像」や与謝野町指定文化財「木造阿弥陀如来坐像」（宝巖寺蔵）など宗教系の像の指定等文化財が最も多いです。当地域では伝統的な宗教が仏教・神道であるため、信仰の対象として守り伝えられてきたことを示しています。寺院では臨済宗寺院が多くみられます。

特徴的な点としては、平安時代後期作とされる板列八幡神社の神像の国指定文化財「木造女神坐像」が示す阿蘇海北岸地域の歴史性です。板列八幡神社の場所は、中世の政治経済の中心地である「丹後府中」の縁辺になりますが、平安時代には全国の府中に「国府八幡」を設置する動きがあり、この木造女神坐像は、板列八幡神社が丹後府中の国府八幡である可能性を示しています。

仏像の特徴は、与謝野町指定文化財「木造愛染明王坐像」（施薬寺蔵）にみられるように、胎内仏を持つ仏像があることです。胎内仏を持つ仏像は大江山連峰周辺に多く分布しています。また、伝説伝承と関係する仏像もみられます。与謝野町指定文化財「木造地藏菩薩立像」（金剛寺蔵）は、大江山の山腹にあったとされる根本寺から飛んできたという伝承があり、与謝野町指定文化財「木造薬師如来立像」（施薬寺蔵）は麻呂子親王の大江山鬼退治の七仏薬師伝承があります。また、与謝野町指定文化財「木造聖観音菩薩坐像」（上田観音堂）は清和天皇の寵愛を受けた当地の女性「如意尼」伝承を持っています。



木造女神坐像



木造阿弥陀如来坐像



木造愛染明王坐像



木造地藏菩薩立像



木造薬師如来立像



木造聖観音菩薩坐像

美術工芸品：工芸品

国指定文化財「石燈籠」（四辻八幡神社）など宗教施設に伴う指定等文化財が最も多いです。当地域では伝統的な宗教が仏教・神道であるため、住民の信仰の対象として守り伝えられてきたことを示しています。寺院では臨済宗寺院が多くみられます。

京都府指定文化財「石燈籠」（天満神社）など主に中世の当地域の姿を伝えるものが中心です。その中でも与謝野町指定文化財「南京大鉢」は江戸時代後期の文政一揆にかかる資料です。



八幡神社石燈籠



天満神社石燈籠



愛染堂石燈籠



南京大鉢



西光寺の板碑

美術工芸品：書跡・典籍

京都府暫定登録文化財「蕪村筆連句稿 歌仙「はしたてや」」などがありますが、指定等文化財の少ない分野です。

美術工芸品：古文書

京都府暫定登録文化財「加悦区有文書」などがありますが、指定等文化財となっている物件の少ない分野です。「加悦区有文書」は加悦の町並みの歴史を伝える貴重な資料です。

美術工芸品：歴史資料

「123号機関車」は近代の鉄道交通史上に文化財的な価値の高いものです。また、与謝野町指定文化財「旧加悦鉄道車両群」（10車両）も交通の近代化を示す文化財として当地域の近代史を物語っています。鉄道は移動・物流の手段を激変させた近代化を象徴する物件であり、当地域の近代の動向をよく示すものです。

また、京都府暫定登録文化財「俳額 奉納四季発句合^{ほっくあわせ}」などは江戸時代後期の庶民に俳句が浸透していることを示しており、当時の文化レベルを伝える文化財として興味深いものです。



123号機関車



木造客車ハブ3



木造客車ハ4995

美術工芸品：考古資料

国指定文化財「京都府大風呂南1号墓出土品」は、弥生時代の当地域の特質を象徴する一級品です。鉄剣に象徴される鉄器の物流やガラス釧は海路による広い範囲の交流を示す文化財として古代丹後の隆盛の源泉を物語っています。



大風呂南1号墓のガラス釧



日吉ヶ丘遺跡1号墓の管玉群



岩滝丸山の石棺

民俗文化財：有形民俗文化財

京都府暫定登録有形民俗文化財「板列八幡神社奉納船絵馬」は、江戸時代後半の北前線交易の隆盛を物語る数少ない文化財として重要です。

板列八幡神社奉納船絵馬



民俗文化財：無形民俗文化財

京都府登録無形民俗文化財「三河内の曳山行事」「後野の屋台行事」など氏神祭礼に関する行事や芸能が指定等文化財になっています。これらは江戸時代から近代にかけて庶民の信仰と経済力が民俗行事として発達したことを示しています。特に屋台系の祭礼は丹後ちりめん織物産業の富が結晶したものとして評価されます。



三河内の曳山行事



後野の屋台行事



大命神社の籠囃子



木積神社の太刀振り

記念物：遺跡／史跡

国指定文化財「日吉ヶ丘・明石墳墓群」「白米山古墳」「蛭子山古墳」などの国内屈指の大型墳墓は古代の当地域の隆盛を物語る文化財として高い歴史的な価値を持ちます。これらは古代日本において、当地域が地域王権の雄であった姿を今に伝えています。



日吉ヶ丘遺跡 1号墓



白米山古墳



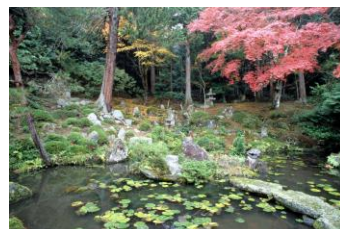
蛭子山古墳

記念物：名勝地／名勝

京都府指定文化財「^{さいこうじ}西光寺庭園」「^{じょうせいじ}常栖寺庭園」の2件があります。江戸時代後期には当地域に作庭文化が伝わっていたことを示しています。



西光寺庭園



常栖寺庭園

記念物：天然記念物

京都府指定文化財「滝のツバキ」は国内最長寿級のヤブツバキの巨木です。

地域を定めず、という扱いのため一覧には含めていませんが、特別天然記念物「コウノトリ」

と同じく「オオサンショウウオ」及び京都府登録天然記念物「アベサンショウウオ」があります。コウノトリは隣接する兵庫県豊岡市で育成しているものが飛来してきます。今のところ、与謝野町内での営巣は確認されていません。オオサンショウウオとアベサンショウウオは、岩屋川で確認されています。



滝のツバキ



雲岩寺のコブシ



明境神社のボダイジュ

伝統的建造物群

加悦伝統的建造物群保存地区は、地区の中央に丹後と京都を結んだ街道（通称「ちりめん街道」）が通り、近世～昭和前半期の与謝野町の南部地域の人・モノ・情報の拠点となりました。近世初期の城下町の地割を基本に、製織業を中心として発展した町の基本的構造を良く残し、江戸時代から昭和初期にかけて建てられた主屋や土蔵、縮緬工場、洋風建築などが一体となって特色ある歴史的風致を伝えています。



加悦伝統的建造物群保存地区

文化財環境保全地区

京都府及び与謝野町指定・登録文化財とされた建造物に付随する枠組みで、木々に囲まれた建造物を急激な環境変化による損傷から守るために設けられた制度です。京都府指定文化財「天満神社本殿」や京都府登録文化財「木積神社本殿」「倭文神社本殿」の周囲はそれぞれ京都府文化財環境保全地区として決定されています。

2 日本遺産

300 年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊

伝統地場産業の丹後ちりめん織物業を中心としたストーリーで、平成 29 年度に認定されました。複数の自治体にまたがっているストーリーが展開する「シリアル型」として認定されており、与謝野町内の構成文化財は 25 件となっています。

1 ストーリーの概要

京都府北部の丹後を訪れると、どこからか聞こえてくるガッチャン ガッチャンという機織りの音。丹後は古くから織物の里です。江戸時代に発祥した絹織物「丹後ちりめん」は、しなやかで染色性に優れ、友禅染などの着物の代表的な生地として、我が国の和装文化を支えてきました。この地は今も着物の生地の約 6 割を生産する国内最大の絹織物産地であり、織物の営みが育んだ、住居と機屋が一体となった機屋や商家、三角屋根の織物工場の町並みと、民謡宮津節で歌い継がれた天橋立などの象徴的な風景を巡れば、約 300 年に渡る織物の歴史と文化を体感することができます。

2 構成文化財

表 13 与謝野町関係分一覧

名 称	指定等の状況
丹後ちりめん	未指定・無形文化財
八丁 <small>はっちょうねんしき</small> 撚糸機	未指定・有形民俗文化財
ちりめんの道の機屋の町並み	未指定・伝統的建造物群
ちりめん街道	国選定・伝統的建造物群
旧尾藤家住宅	京都府指定・建造物・重伝建特定物件
大内 <small>おおうちとうげいちじかん</small> 峠一字観公園	未指定・名勝地
西山 <small>にしやまきやうじやう</small> 機業場の建物群	未指定・建造物・重伝建特定物件
織物見本帖「橋立」 <small>みほんちやう</small>	未指定・歴史資料
下村 <small>よしちやう</small> 与七郎家住宅	未指定・建造物・重伝建特定物件
下村 <small>ごろうすけ</small> 五郎助家住宅	未指定・建造物・重伝建特定物件
杉本 <small>じすけ</small> 治助家住宅	未指定・建造物・重伝建特定物件
旧加悦町役場庁舎	京都府指定・建造物・重伝建特定物件
旧加悦鉄道加悦駅舎	町指定・建造物
旧加悦鉄道 2 号機関車 (123 号機関車)	国指定・歴史資料

名 称	指定等の状況
丹後ちりめん歴史館	未指定・建造物
織物始祖祭・金色蚕糸神祭 <small>おりものしそまつい こんじきさんししんまつい</small>	未指定・無形民俗文化財
実相寺	未指定・建造物・重伝建特定物件
三河内曳山行事	京都府登録・無形民俗文化財
倭文神社 <small>しんじゆ</small>	京都府登録・建造物
後野の屋台行事	京都府登録・無形民俗文化財
加悦谷祭の加悦・算所の屋台巡行	未指定・無形民俗文化財
宝巖寺 <small>ほうがんじ</small>	未指定・建造物・重伝建特定物件
吉祥寺	未指定・建造物・重伝建特定物件
丹後ちりめん岩屋踊り	未指定・無形民俗文化財
丹後ばらずし	未指定・無形文化財

3 未指定文化財の概要と特徴

1 未指定文化財

与謝野町の未指定文化財のうち、既往の調査や文献により確認された物件は、下記の一覧表のとおりで9,752件です。

表 14 与謝野町内の未指定文化財一覧 (令和4年3月31日時点)

種類	数量	種類	数量
1 建造物/寺院建築 総数 30 (うち、指定等 5)	25	12 民俗文化財/有形民俗文化財/祭り屋台	61
2 建造物/近代和風建築	24	13 民俗文化財/無形民俗文化財/神社祭礼	24
3 建造物/石塔/中世石造物	4,804	14 記念物/遺跡 (遺跡名数) 総数 406 (うち、指定等 13)	393
4 美術工芸品/絵画・墨跡/仏教系	155	上記のうち、記念物/遺跡/弥生墓・古墳 総数 1999 基	-
5 美術工芸品/彫刻/仏教系	318	上記のうち、記念物/遺跡/山城跡 総数 57 ケ所	-
6 美術工芸品/工芸品/仏教系	9	15 記念物/名勝地	4
7 美術工芸品/工芸品/祭り屋台懸装品	118	16 記念物/植物/樹木/巨樹	93
8 美術工芸品/古文書 (所有者単位の数値)	69	17 文化的景観	1
9 美術工芸品/歴史資料/地籍図	73	18 伝統的建造物群	6
10 無形文化財/食文化	3	19 その他/地名/字名 20・小字名 2,895	2,915
11 民俗文化財/有形民俗文化財/民具	657		
合 計			9,752

建造物

寺院建築では、26ヶ寺で30棟（指定等5等・未指定25棟）の現地確認をしています。自治区に1つの寺院がある場合が多く、例外としては、加悦地区内に4件・石川地区内に2件がみられます。2地区とも町場的な地区ですので、商いのための集住者が多かったことを示しています。なお、臨済宗の寺院が圧倒的に多い状態です。



後藤八郎助住宅

民家建築では「京都府の近代和風建築」で大型民家建築を中心に未指定物件24件をピックアップしています。一般民家レベルでは無数に近い数に上ります。

石塔は、中世墓に伴う石造物が大半ですが、町内全域の墓地を中心に4,804点を確認しています。丹後の他地域に比べて与謝野町の中世石塔の数量は多く、中世の与謝野町域の墓制の特徴です。

美術工芸品：絵画・彫刻・工芸品・墨跡

絵画・彫刻・工芸品・墨跡では、旧加悦町域の寺院を中心に仏教系の文化財を482点確認しており、寺院所有品が多い傾向にあります。また、絵画では、当地を訪れた与謝蕪村筆や富岡鉄斎筆の作品が知られていますが、その多くが個人所有品です。

与謝野町内の神社の春例大祭では、屋台巡行を伴う事例が多く、屋台に取り付ける見送り幕などの懸装品を118点確認しており、当地域の氏神祭りの特徴を示しています。

また、数は少ないですが、道標系の資料もみられます。



祭り屋台の見送幕

美術工芸品：古文書

尾藤家文書や下村文書など民間所有のものがほとんどで、時代的には近世・近代のものが占めます。加悦地域と野田川地域で73件を確認しています。中世文書は少ない傾向です。

美術工芸品：歴史資料

地籍図・絵図は、主に自治区が所有するものを73点確認しています。地域の近代史を知る上で有用な物件もあり、特に加悦伝統的建造物群保存地区では高い有用性があります。



石川区



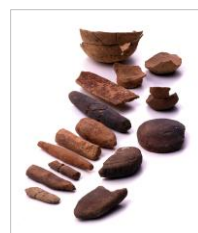
岩滝連合区



加悦区

美術工芸品：考古資料

遺跡発掘調査の出土品が相当量あります。その多くが弥生時代と古墳時代のものです。特徴的な古墳出土品としては、蛭子山古墳や作山古墳出土の埴輪や明石大師山古墳群出土の土製模造品などがあります。その他にも弥生時代の環濠集落出土品など原丹後時代の当地域の隆盛の姿を物語る文化財が多くあります。



供物形土製模造品

無形文化財

当地域の特徴的な食文化として「丹後ばらずし」「与謝野べうどん（仮称）」「テッポウ」などは振るわれる時が限定されるなど習慣的な位置付けも含め、興味深い文化財です。

また、和装用の絹織物の国内最大の生産地である当地域においては、手作業で織物を作る織物技術者は少ないながらもその技術が受け継がれています。また、機械織りにおいても高度な技術が必要とされるもので、継承者は少なくなりつつもその技術は受け継がれています。



ばら寿司と祭り

民俗文化財：有形民俗文化財

与謝野町内の神社の春例大祭では、屋台巡行を伴う事例が多く、当地域の特徴になっています。61 物件という多数の祭り屋台が存在しており、春にはそれらが与謝野町内のあちらこちらで巡行しています。ただ、現役品ということもあり、祭り屋台そのものの指定はありません。また、生活文化の道具である民具を多数保管（657 点以上）しています。



三河内の山屋台



加悦の芸屋台



後野の芸屋台



岩滝の芸屋台

民俗文化財：無形民俗文化財

与謝野町内の神社の春例大祭では、屋台巡行を伴う事例が多く、屋台巡行以外にも、多くの地区で神楽を行い、また、少数ながらも太刀振りの行う地区もあり、当地域の特徴になっています。屋台巡行や神楽などの一部は指定等文化財となっていますが、その大部分は未指定文化財です。その他に、岩滝大行列は、不定期な開催ながらも江戸時代から継続されている芸能です。



太刀振り・神楽舞

記念物：遺跡

遺跡は土地開発に関係するケースが多いため、他の分野と比べて取り組みが進んでいます。全町域での遺跡分布調査が実施され、遺跡総数 406 地点（うち指定文化財数 13）を確認しています。その大部分は未指定文化財です。温江遺跡・日吉ヶ丘遺跡・須代遺跡は弥生時代の大規模集落遺跡で、当地域が原丹後の拠点地域の一つであったことを物語っています。



須代遺跡

記念物：名勝地

与謝野町を象徴する自然景観の「大江山連峰」「阿蘇海」は、伝説文学作品を生み出す素地でもある名勝地です。また、これらは環境省の「丹後天橋立大江山国定公園」（福知山市・舞鶴市・宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町）でもあります。

庭園では、「鞭家庭園」「雲岩庭園」の 2ヶ所を確認しています。



大江山連峰



阿蘇海

記念物：動物・植物・地質鉱物

動物では、野田川を遡上するサケがあります。この野田川のサケの遡上は、日本列島での遡上の南限近いものです。平城宮木簡に「与謝川の鮮鮭」が納められたという記述があります。その他にも、阿蘇海にはコハクチョウが飛来します。

植物では、町内に点在する巨樹を 93ヶ所で確認しています。

岩石では、大江山連峰のカンラン岩帯・蛇紋岩帯があります。



蛇紋岩

文化的景観

丹後往還が通る「与謝峠からの加悦谷景観」は山間部での住宅群と農地を一望できる眺望地です。与謝峠は丹後・丹波の境界性をもった地点ですので、眺望する人にとっては「丹後に来たなあ」という印象を抱かせる景観です。

加悦谷の水田景観



伝統的建造物群

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている加悦の町並み以外にも、与謝二ツ岩・後野・三河内・石田・岩滝・石川の 6ヶ所の伝統的建造物群は比較的良好な歴史的な町並み景観を保っています。

後野の町並み



その他の文化財

「地名」として、字名 20・小字名 2,895 が記録されていることを確認しています。地名は、その場所の歴史性を伝える資料と考えることができます。その他にも古代・中世の文献で確認される領域名称や近世・近現代の自治的組織名も地名の一種とすることができます。また、小字でもなく、その時代ごとの生活の中で付けられ、用いられた地名は未把握なものが多く、消失したものが多いためです。

^{おおむし}大虫神社跡など神社跡伝承地のような信仰に関する伝承地や鬼の岩屋など大江山の鬼退治のような伝説・伝承文学に関する場所も当地の歴史文化の特徴を示す文化財として扱います。



第4章 丹後国・与謝野町の歴史文化の特徴

1 歴史文化の特徴の概要

1-1 政治・経済の視点から

政治・経済の拠点性を示す歴史的事象を古い順に示すと、原始の弥生・古墳時代の原丹後期では、日吉ヶ丘墓・大風呂南1号墓・赤坂今井墳丘墓の大型弥生王墓や蛭子山1号墳・網野銚子山古墳・神明山古墳の大型前方後円墳などがあります。特に、網野銚子山古墳・神明山古墳は臨海地に築造されており、眼下にあった内海の潟湖を交易港とした広域な海路交易で大きな富を得ていたと想定されています。また、それらを統括した豪族は、弥生王墓の立地を勘案すると、内陸部の竹野川中流域および野田川中流域の農耕地帯に拠点を構えていたと想像されています。原始の丹後半島には、遠方とつながる海路港とその港に近い距離にあり海路の富も享受する内陸の農耕地帯の拠点集落、それをつなぐ道という構造が見て取れます。

古代の奈良・平安時代では、阿蘇海北岸域に国府を構え、続く、中世の鎌倉・室町時代も同所を府中としていました。この地も阿蘇海という内海の潟湖港を有する土地です。この時代では政治拠点と経済拠点が同じ場所になっています。さらに、成相山腹に源を発する真名井の清水が天橋立で区画された阿蘇海に注ぎ満ちることで、成相山と真名井と阿蘇海という霊異に満ちた空間を形成し、丹後国府・守護所は信仰聖域の一角でもありました。なお、原始・古代・中世の丹後国と丹波国をつなぐ陸路は、加悦谷ー与謝峠越えがメイン街道でした。

近世の安土桃山・江戸時代では、府中を守護所とした丹後守護一色氏を倒して丹後平定をなした細川藤孝（幽斎）は、丹後府中とは対岸の宮津湾に面した大手川河口に港を有する宮津城を建築しました。その後、幽斎は田辺城に移り、2人の息子のうち、嫡男の忠興を宮津に、興元を峯山に配し、さらに、重臣の中から、松井康之を久美浜に、有吉立言^{たつのぶ}を加悦に、田沼を由良川筋の中山にそれぞれ配しました。なお、宮津・田辺・久美浜は海路、峯山・加悦は陸路、中山は河路の拠点であり、政治・経済上、重要な土地でした。この支配の枠組みは江戸時代にも踏襲され、丹後国三藩一代官所（宮津藩・田辺藩・峯山藩・久美浜代官所）となっています。特に、宮津は北前船交易の寄港地の一つとして、地域経済上、重要な場所でした。この北前船のオーナーは、三上家など臨海地の商家だけでなく、尾藤家など内陸部の加悦の商家もオーナーでした。丹後の内陸の陸路地帯は、海路港に近い内陸であり、海路交易の富も享受する内陸でもありました。なお、近世の丹後国と丹波国をつなぐ陸路は、宮津谷ー普甲峠越えがメイン街道でした。

近代の明治・大正・昭和20年までは、明治時代に東舞鶴



丹後国の地理上の位置

港が国防の要として整備され、赤レンガ倉庫群など軍事施設が建築されました。陸路では鉄道網が日本列島を覆っていき、丹後では京阪神地区から舞鶴軍港と宮津港を目指して鉄道が整備されていきました。多人口地帯の近畿中央地域にとって、鉄道も含めた丹後の陸路は、日本海側に最も近い土地の一つにアクセスするものでした。

地域産業に目を移すと、奈良時代には正倉院に丹後国の絹織物が納められ、中世では絹織物「丹後精好」が特産品となっていました。その上に江戸時代後半には「ちりめん織り」技術を導入した絹織物「丹後ちりめん」として近現代の長期間にわたり、基幹産業として富を生み出し続けました。そして、この富は氏神祭りの神輿や山・屋台の巡行の賑わいを生み出しました。また、織物など物資を集積する加悦伝統的建造物群保存地区（通称、ちりめん街道）などの在郷町は、電信電話局や銀行など情報・金融インフラを整備した産業町の町並みを形成しました。海岸部に目を転じると伊根の舟屋のような漁村景観が広がっていました。

これら拠点村落を統括する地域の政治・経済のリーダーである名望家は、宮津の三上家・加悦の尾藤家・久美浜の稲葉家・大江の平野家のように婚姻関係を結ぶことで地域の発展を支えました。江戸時代後半以降にみられる名望家同士の広い範囲での婚姻関係は、尾藤家を例にすると、丹後国内の宮津や大江はもとより、但馬の日高・豊岡・浜坂や北播磨の西脇などの名望家と婚姻関係を結びました。

1-2 文学・芸術の視点から

丹後国の異界性は、天橋立を舞台としたイザナギ・イザナミの通い婚の神話や大江山を舞台とした鬼退治の伝説を醸し出しました。また、半島という海に飛び出た地形は、浦島子（浦島太郎）が常世（蓬萊）を往復する海上他界観念の文学作品を創出しました。清水信仰では、磯砂山の湧き水地点の女池において天女羽衣伝説を生み出しました。

絵画や短詩文学では、日本三景とも称された独特の景観である天橋立は、心理的な源泉として多くの絵画や文学作品を生み出しました。

2 歴史文化の特徴の分類

第2章と本章で述べた丹後国域と与謝野町域の歴史文化についてその特徴を大きく捉えると、以下のA～Eの5分類にまとめることができます。

特徴 A 海路と交易港が生み出す政治・経済 —丹後国交易海都—

鍵穴形の妙な形をした小高い山。それは長さが200m近くもある古代の王墓「古墳」でした。原丹後（和銅6年（713）の丹後分国以前の地域呼称）には、日本海沿岸地域トップ3の墳丘規模を持つ網野銚子山古墳・神明山古墳・蛭子山1号墳があります。なぜ、丹後半島のような山間地に巨大な古墳があるのでしょうか？人々はその理由を忘れてしまっていました。今から1650

年ほど前のことです、忘れても無理はありません。

原丹後の弥生時代の豪族の墓からはたくさんの鉄剣など鉄製品が発見されます。当時の鉄は朝鮮半島からの輸入品でした。とても貴重品でした。そんな貴重な鉄器が惜しげもなく墓に副葬品として遺棄されました。原丹後は鉄の大国だったのです。今から 2000 年ほど前のことです。そして、1800 年ほど前の王墓からはガラスの腕輪が発見されました。これは古代日本列島で作られたものではありません。遠く日本海を渡って東アジア大陸から伝来した品です。

これらの物証は、人々が忘れた記憶が何であったのかを思い起こしてくれます。それは、原丹後時代の丹後半島の地が港を拠点として遠く朝鮮半島とも深く交流した国内屈指の交易都だったことです。長い間眠っていた記憶が現代に出現したのです。

丹後における海路港の重視は、奈良・平安時代の丹後国府や鎌倉・室町時代の丹後守護所、江戸時代の宮津城などの城、明治・大正・昭和時代の舞鶴軍港などにも継統されており、現代行政では、「海の京都」事業ともされています。



神明山古墳と竹野瀉湖跡



熊野神社と久美浜湾（瀉湖）



府中と阿蘇海（瀉湖）

特徴 B 鉄道がつなぎ・運ぶ、人・モノ・情報

線路は続くよ、どこまでも。近代の物流の主役は鉄道です。地域と地域をつなぎ、人と人をつなぎ、モノ・情報を運びます。鉄道は日本列島を便利にし、少々狭くしました。

近代の丹後にとっても鉄道は最優先インフラでした。軍港舞鶴と接続するために京阪神地区から鉄道がのびてきます。どんどんつながっていきます。そのつながりに早く参加しなくてはなりません。丹後の各地域は、近代の拠点「舞鶴」及び福知山の鉄道との接続を目指して、特に大正時代には誘致運動が活発になります。官営鉄道誘致合戦「我が町に鉄道を！」が展開します。官営鉄道線から外れた地域は、自前で鉄道を作り出します。その代表が加悦鉄道です。ちりめん産地の在郷町の加悦谷の住民は、ついに大正 15 年（1926）12 月 5 日、一番列車を出発させました。

今は廃線になったローカル鉄道ですが、設立当初の熱意を受け継ぎ、地域の人々の歴史をつなげています。



舞鶴旧鎮守府倉庫施設



丹鉄由良川橋梁



旧加悦鉄道駅舎と 123 号機関車

特徴 C 町並みに息づく暮らしと産業

ガッチャン ガッチャンと機械式の機織りの音がリズムよく、重層的に騒がしく響き続けます。騒々しい中にリズムのある機音は丹後の音色です。丹後ちりめん織りに代表される当地域の絹織物産業は、古代から織られており、室町時代には「丹後精好」として特産品となり、江戸時代以降に発達した丹後の「ちりめん織り」は日本の和装文化を支えてきました。

丹後ちりめん織物産業が生み出す富は、街道に沿って連なる町並みを作り出し、在郷町の加悦では銀行・通信情報や発電所・鉄道などの近代産業インフラが一早く整備されました。また、その富は氏神祭りでの神輿渡御や屋台巡行としても昇華しました。「ハレの日」の料理として丹後人が愛する「丹後ばらすし」も誕生しました。町並み・神社祭り・ばらすしなどは、丹後の機屋文化として今も受け継がれています。



加悦伝統的建造物群保存地区



絹織物を織る



三河内の曳山

特徴 D 海原と湧き水と山並みが創造した伝説文学 —丹後と異界—

丹後半島は、奈良・京都の都から遠すぎず近すぎずの場所にあります。そして、丹後半島のその先は無限に思える日本海が広がり、その向こうの東アジア・東北アジアの大陸とつながっています。古来より丹後は海の向こうの異国・異界と接続する土地柄でした。異国・異界との境界にはさまざまなモノが息づいており、物語の源泉となります。



天橋立とイザナギ・イザナミ

古代の丹後半島は、人・モノ・情報が行き来する重要な地域でした。先進的な文物・思想が丹後を経由して畿内・東海などに伝わりました。都人から見ると、丹後そのものに異質性を感じる場所でもあったでしょう。丹後半島の異界性と、その風土が生み出した物語が浦島伝説・天羽衣伝説・天橋立伝説です。これら日本最古級の文学作品は丹後を舞台に創造されました。



冠島と常世

丹後の海民は、遠く東北地方とも頻繁に行き来していたのでしよう。それが安寿と厨子王の物語を創作させたと思われれます。

また、丹後半島の南境界にそびえ連なる大江山連峰も異界性を象徴する存在です。異界丹後を区切る山並みには異質なモノが棲んでいる。鬼が棲んでいるに違いない。都人は、大江山に鬼・ま



磯砂山と天女

つろわぬ者の棲まう土地をイメージし、大江山の鬼退治物語を定着させました。

海の向こうの観念的な異世界とつながる丹後の境界性は、海・山という異界景観を糧として丹後の文学作品を生み出しました。

特徴 E 丹後の自然景観が創造した文学・芸術

感動とは何でしょうか？ 人は感動した時にどんなことをしたくなるのでしょうか？

日本三景の一つ特別名勝「天橋立」は多くの俳句短歌や絵画を生み出しました。感動がそれらを創らせました。感動は創作意欲を刺激します。天橋立文学は、古くは古代のイザナギ・イザナミの神話にさかのぼり、近代では与謝野鉄幹・晶子らが短歌を詠み、そして、今も訪れる人たちの目の前に広がる異質な光景は感動を生み続けています。複数ある天橋立のビュースポットは、感動を生み出す文学創作のアトリエでもあります。



天橋立

また、鬼の棲む山「大江山」の景観も天橋立と同じ俳句短歌を生み出す源泉となりました。与謝野鉄幹の父・礼厳は大江山の裾野の村で生まれ育ち、当地を訪れた鉄幹・晶子は大江山を詠んでいます。

自然地形の天橋立や大江山連峰の景観という舞台「丹後国ジオ・ステージ」は人々を感動させ、文学を生み出します。丹後文学・与謝野文学の誕生です。



大江山連峰

3 丹後国域と与謝野町域の歴史文化の特徴

上記で述べた丹後国域と与謝野町域の歴史文化の特徴をまとめると、以下のように整理できます。

丹後国域

日本海に短く突き出た丹後半島は、原始・古代から海路を利用した移動・交易が盛んな土地柄でした。海路の拠点となる「港」の変遷に注目すると、

- ・第1期（原始）の弥生の大型墳墓と古墳時代の大型古墳を出現させた源泉となった文物は豊富な輸入鉄製品でした。これらの鉄製品は、朝鮮半島・九州北部という遠方から海路を通じ、京丹後市の久美浜潟湖（久美浜湾）・網野潟湖・竹野潟湖と与謝野町・宮津市の阿蘇潟湖（阿蘇海）など波の穏やかな天然の良港である潟湖で陸揚げされ、近畿中央地域や東海地域などに流通させることで富を生み出しました。

- ・第2期(古代から中世)の奈良時代から戦国時代は、海路の拠点港が阿蘇潟湖畔に移動し、そこに国府・守護所が設置され、丹後国の政治・経済の中心「港湾都」たる丹後国府・丹後府中となりました。
- ・第3期(近世)の江戸時代は、宮津藩は宮津湾岸に宮津城を築き、宮津港が整備されました。また、田辺藩も内湾した内海に面した立地に城を構えました。峯山藩は丹後半島の内陸のヘソ的な場所を所領としていました。また、久美浜潟湖には代官所が設置され、江戸幕府が日本海海運の富を重要視していたことがわかります。このように、江戸時代の丹後国の三藩一天領では、内陸の峯山藩以外は、港湾性を重視した立地に城や代官所を構えました。
- ・第4期(近代)の近代では、船が大型化したことで、大型船が接岸するに適した深度の深い舞鶴湾が重要視されました。東舞鶴では軍港が整備され、日本の国防の一翼を担う地となっていくます。

以上のように、各時代において、遠方と通交できる良好な港を有する土地が政治・経済の中心地となり、これらの港が丹後国域の富の源泉の拠点でした。つまり、丹後国域の歴史の変遷は「港の変遷」に顕著に表れていると理解することができます。

また、丹後の浦島伝説に象徴されるように、丹後は海の彼方にある異界の蓬莱につながるという地域イメージは、古代の天羽衣伝説・天橋立伝説、中世の大江山の鬼伝説を生み出す基盤となっています。

よって、**丹後国域の歴史文化の特徴**は、物理的な外界及び観点的な異界とつながる拠点性を持つ場所を港にたとえ、

異界への扉、丹後国「^{みなと}港」として整理できます。

与謝野町域

丹後半島の南部で、その付け根に位置する与謝野町域の歴史は、港と内陸部をつなぐ「道」が重要な視点となっています。そこで、丹後国と他地域をつなぐ陸路の変遷に注目しますと、

- ・第1・2期のメイン街道は、加悦谷－大江山連峰の与謝峠越え
- ・第3期のメイン街道は、宮津谷－大江山連峰の普甲峠越えで、与謝峠越えはサブ街道
- ・第4期は鉄道の時代で、京阪神地域から舞鶴港に向かって鉄道が敷設され、丹後内では舞鶴ないし福知山と鉄道でつながることが地域の発展の鍵

総じて、道の変遷にみる与謝野町域の歴史的な位置付けは、丹後の港と近畿中央の内陸地域をつなぐ陸路の拠点としての有用性に左右されました。

- ・第1・2期は、丹後往還メイン街道の拠点
- ・第3・4期は、丹後往還サブ街道の拠点

また、与謝野町は、地形的に阿蘇海と大江山連峰に挟まれる特徴を持っており、その中で人々の暮らしが営まれてきました。

よって、与謝野町域の歴史文化の特徴は、丹後国外と接続する港と近畿中央部など日本列島内陸部とを往来する人・モノ・情報が行き交う陸路の拠点「丹後国の南の玄関口」であり、

阿蘇海と大江山とに囲まれて -海陸クロスロード- として整理できます。

以上のことから、与謝町域を含む丹後国域の歴史文化は、日本海を通航する「海路港」と近畿中央部をつなぐ「都街道」を物流の基盤としつつ、この土地に広がる自然環境を背景に繰り広げられた生業や産業、信仰や祭礼行事などの人々の営みが相互に関係し合いながら一体となった社会環境の中で形成されたものと言えます。



図 20 丹後国の主要な地理情報

